

Vol.19 No.2 '96

1997年1月30日 発行 目次

糖尿病患者における乳糖不耐症の診断	5
弘前大学 第3内科 寺田明功 他	
小腸二糖類水解酵素並びに大腸内発酵に及ぼす各種食物繊維の影響	9
国立健康・栄養研究所 食品科学部 山田和彦 他	
Corn bran hemicellulose 長期投与におけるヒトの耐糖能障害改善効果とその作用機序	14
浜松医科大学 第1内科 花井洋行 他	
離乳期におけるラクターゼ遺伝子発現の低下に対応した核内因子NF-LPH1量の減少	15
静岡県立大学食品栄養科学部 栄養生理 田中竹美 他	
平均ペプチド鎖長の異なる2種の大豆ペプチドの腸管吸収の検討	20
滋賀医科大学 第2内科 全 活 他	
膵外分泌障害患者に対する消化酵素製剤投与時の脂肪吸収改善と食後血糖上昇との関係について	26
弘前大学 第3内科 荒井雄樹 他	
食事中魚油摂取量からみた健康者の血中脂肪酸profileの変化と血中脂質	30
弘前大学 第3内科 渡辺 拓 他	
膵リパーゼ活性に対する膵トリプシンおよびキモトリプシンの影響	34
天野製薬(株)中央研究所 仲 恭寛 他	
Ileo-jejunal transpositionが脂肪吸収に及ぼす影響についての実験的検討	37
町立大河原病院 外科 土屋 誉 他	
膵外分泌不全犬におけるbacterial lipaseの効果— balance studyによる検討—	41
京都府立医科大学 第3内科 山根行雄 他	
長期的な経腸栄養が有効と考えられた胃膵全摘後21年経過生存中の一例	45
金沢大学 第2外科 伊藤 博 他	
腸疾患における糞便中α 1-acid glycoprotein測定の意義	50
大阪医科大学 第2内科 小島敬史 他	
ラット門脈カテーテル留置法による消化吸收機能の評価法の開発	56
武庫川女子大学 食物栄養 松浦寿喜 他	
栄養状態が空腸絨毛の形態に及ぼす影響	61
中村学園大学大学院 栄養形態 田代美和 他	
酪酸菌経口投与によるラットDDS大腸炎の治療効果	65
滋賀医科大学 第2内科 岡本敏彦 他	
TPN施行後に低栄養状態を呈したクローン病の1例	69
久留米大学 第2内科 居石哲治 他	

クローン病の病態と血清亜鉛	73
兵庫医科大学 第4内科 指尾宏子 他	
モルモット大腸粘膜におけるバソプレシンV₁レセプターと細胞内カルシウム	78
浜松医科大学 第1内科 佐藤嘉彦 他	
マルチールによる腸管カルシウム受動輸送速度の亢進と骨カルシウム含量の増大	81
静岡県立大学食品栄養科学部 栄養生理 岸 和廣 他	
Relationship between Endocytic Pathway and Cytoskeleton in Absorptive Cells of the Small Intestine of the Suckling Rat	86
Department of anatomy, NAKAMURA GAKUEN UNIVERSITY Mamoru FUJITA	
脂肪吸収時における腸上皮細胞よりの脈管作動物質産生について	91
慶應義塾大学 消化器内科 広川雅彦 他	
塩基性・中性アミノ酸交換輸送関連蛋白(NBAT)の構造と機能解析	95
徳島大学医学部 病態栄養 宮本賢一 他	
小腸管粘膜障害時におけるペプチド輸送担体Pet T₁の組織局在性について	99
徳島大学医学部 病態栄養 田中裕子 他	
CCK-A-receptorの隣成長に対する関与— CCK-A-receptor欠損ラットを用いた検討	103
東京都老人総合研究所 臨床生理部門 太田 稔 他	
ペプチドの吸収	
— 門脈血中のシトルリンと腸管粘膜酵素オルニチントランスカルバミラーゼとの相関—	107
日本大学医学部 生化学教室 弘田 玲 他	
食物摂取後の血中消化管ホルモン変動に及ぼす最大下運動負荷の影響	111
明治生命厚生事業団 体力医学研究所 永松俊哉 他	
固形食による小腸通過時間の測定	115
椋山女学園大学 生活科学部 加賀谷みえ子 他	

あとがき

本誌は正宗研総会会長のもとに秋田県総合保健センターで開催された第27回総会の一般演題論文集として編集された。従来からの実験あるいは臨床基礎研究が主体であった演題に加えて、昨今、急速に発展しつつある機能食品あるいは健康食品の基礎研究につながるのではないと思われる演題が加わって来ている。高齢化社会および有疾病者のQOLを考えたとき、本学会の社会的使命は多大であり、広く本誌の存在を承知すべき時期に来ているのではなからうか。今回より学会発表における優秀な研究を本誌掲載論文より選考し学会賞を授与することが決定された。この新たな展開が医学研究のみならず人類の健康増進、QOL確立の研究に大きく貢献することが期待される。

第28回本学会総会は日本大学第3 内科荒川泰行教授会長のもとに7月4日から5日までの2日間にわたって行なわれる。さらにDDW'97にもシンポジウム9、「消化器疾患の栄養アセスメントとその治

療対策」として部分参加することになっており、本学会の益々の発展が予想される。

(K・K)